

**製品名: REL2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17001**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	20kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RLN2
別名	
遺伝子 ID	6019.0
SwissProt ID	P04090
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

**背景**

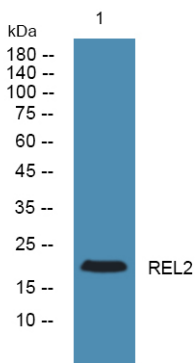
リラキシン 2 (RLN2) ホモサピエンスこの遺伝子は、ペプチドホルモンのリラキシンサブファミリーおよびインスリンスーパーファミリーのメンバーをコードしています。ヒトには、3つの非対立遺伝子リラキシン遺伝子があります。この遺伝子は複数のタンパク質

アイソフォームをコードしており、そのうち少なくとも1つはタンパク質分解処理を受けます。この処理により、ジスルフィド結合で結合したリラキシン A 鎖と B 鎖が生成され、成熟ペプチドホルモンが形成されます。このホルモンは、男性と女性の生殖系で役割を果たしており、当初は妊娠における役割で注目されました。このタンパク質は、血圧の調節や心拍数の制御など、心血管系でも幅広い役割を果たしており、動物モデルのデータでは、このタンパク質が抗線維化作用と心臓保護作用を持つ可能性があることが示されています。[RefSeq 提供、2016年7月]、機能：リラキシンは、多くの哺乳類でエストロゲンと一緒に産道を拡張する卵巣ホルモンです。妊娠中の結合組織のリモデリングに関与し、恥骨靭帯の成長と子宮頸管の成熟を促進する可能性があります。類似性：インスリンファミリーに属する。サブユニット：2つのジスルフィド結合で連結された B 鎖と A 鎖のヘテロ二量体。組織特異性：アイソフォーム 1 は妊娠中に卵巣で発現する。胎盤、脱落膜、前立腺にも発現する。アイソフォーム 2 は胎盤に比較的多く存在するが、前立腺でははるかに少ない。卵巣では検出されない。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



HCT116 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、REL2 ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩